

頑張る

農業法人

バス会社経営と農業経営の両立に取り組む南丹市園部町城南町の有限会社船井農産・代表取締役の野中好さん(53)。J

A京都が委託する水稻育苗を中心に、野菜、花きの育苗を行う。また高校生や小学生の農業体験、農園など多彩な事業にも取り組む、後継者育成や地域農業発展を目指す。

同地区は園部町のほぼ中心部で、田畑が広がる一方、住宅地も多い。

野中さんは、大学卒業後大阪で働いていたが、友人からバス会社の経営を勧められ、1984年ごろから同市に帰郷してバス事業に乗り出した。

その傍らで、同級生の呼び掛けで水稻育苗と農作業受託をしたところ「農業は面白い」と実感。さらに高校生の水稻育

1996年に同級生2人と共に、JAなどのバックアップを受けながら船井農産を設立した。

その後、同級生たちはそれぞれ独立したことから、野中さんも農業経営をさらに発展させて、農業施設の管理を行うために、野中さんと家族2人が経営を行い、農繁期にはパートタイマーを雇用する。

現在、JA京都から水稻育苗を受託し、鉄骨ハウス3棟とビニールハウス6棟の計30㍏で、主に「コシヒカリ」など1万5000枚を育苗する。また花、野菜苗も生産する。

高齢化が進む同地区の農家40戸の10分の1の作業受託にも取り組む。

南丹市 園部町

(有)船井農産



ハウスで稲育苗に励む野中さん

水稻育苗や作業受託

農地保全と後継者育成に力

苗や、小学生の田植え体験を受け入れている。これは子どもたちに農業に関心を持ってもらい、後継者育成につなげようというもの。

一方、休耕農地を活用して、地元住民を対象にした農園を運営している。ここでは栽培した野菜を使ってパーベキューを行うなど、地域活性化につなげている。

また、今年からは甘いブラックトマトの栽培に取り組んでいる。「地域特産化にしたい」と夢は膨らむ。

「農繁期はバス事業が空く時期なので、二つの事業がタイミング良くできる。今後も地域の皆さんと一緒に農地保全や、後継者育成に取り組んでいきたい」と話す。

▽法人所在地 南丹市園部町城南町ツジ1。電話 0771(63)0660。